

◆ 議長記者会見概要

日時：令和4年6月27日（月）16：10～16：25

場所：県議会棟理事者控室

出席者：荻田義雄議長、和田恵治副議長



荻田義雄議長

和田恵治副議長

<案件>

1年間の振り返り

（荻田議長）

議長就任後の1年間はあるという間でしたが、私と和田副議長は、同年代でもありますし、また同窓ということもあり、本当に兄弟のように、お互いの良いところを伸ばしながら、ともに行動してまいりました。

県議会は、二元代表制という中であって、私たちが、知事部局と十分な議論を重ねながら、今日まで、県民の皆さまの幸せや、安全安心のためにできることについて、また何とか県を活性化させたいといった思いを込めて、コロナ禍の状況ではありましたが、種々活動してまいりました。

一昨年より新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていますが、ワクチンの3回接種を希望する国民に対して、接種が行われた結果、状況が安定してきましたので、これが一つの良い処方箋になったのではと考えています。

特に、感染症対策等につきましては、令和2年4月に設置した「奈良県議会新型コロナウイルス感染症対策会議」が、県が「緊急対処措置」等の新たな対策を発出する機会などに開催され、これまで計28回開催するなど、県議会としても、知事部局と一緒に、

積極的に取り組んでまいりました。知事が提案する新型コロナウイルス感染症対策に関する予算案につきましても、各党派より知事に対して様々な角度からの要望が出されました。提出議案について吟味しながら、本会議や、各委員会の積極的な議論を通じ、実効性のある対策を講じるよう促してまいりました。

県議会での感染防止対策として、議会棟入庁時の検温や、マスク着用の徹底、議席へのアクリル板設置、傍聴人数の制限、加湿器の設置等を行っています。また、万が一の場合でも議会運営に支障が生じないように、議会内部の会議のオンライン出席を可能とするなど、危機管理にも努めてきました。

今年3月4日には、「ロシアによるウクライナ侵略を非難する決議」を全会一致で議決しました。国際社会の外交努力にもかかわらず、2月24日にウクライナへの侵略を開始したロシアの行為は、国際秩序の根幹を揺るがす、大胆な行為とともに、国際社会の平和と安全を大きく損なうもので、断じて容認できるものではありません。

こういった状況の中で、この決議は、奈良県議会として、ロシアの侵略行為に対して、抗議・非難するとともに、即時の攻撃停止と軍の撤退を求めることを表明したものです。

また、4月25日の夕方、大和郡山市内の近鉄橿原線の踏切を渡ろうとしていた、目の不自由な女性が電車に接触し、お亡くなりになるといった、本当に痛ましい事故が発生しました。このことを受けて、県議会では、「視覚に障害のある人に対する鉄道事業者による総合的な安全対策を求める決議」を6月22日に全会一致で議決しました。要望する具体的な安全対策としては、踏切内における踏切障害物検知装置や点状ブロックといった誘導表示等の設置、駅構内でのホームドア設置といったハード対策、誘導案内や声かけといったソフト対策の実施を求めるものです。

そして、議会改革に関する取組としては、私たちの、令和5年度の県議会の改選に向けて、奈良県議会議員定数の見直しについて検討しました。

議員定数の検討につきましては、任期が迫る中で、1票の格差を考えるにあたり、様々な問題をどのように取り扱うかということにもつながります。

今回は、令和5年度の改選に向け、奈良県議会議員定数の見直しについて、「奈良県議会議員定数等検討委員会」を設置し、4回にわたって委員会を開催しました。本県議会の「定数」「選挙区」「選挙区別定数」について検討した結果、「定数」「選挙区」「選挙区別定数」のすべてについて、現状維持が適当との結論に至った旨の答申が、今年3月25日に、委員長の中村昭議員から私あてにありました。

また、昨年、東京都議会において、正当な理由もなく、長期間にわたって議会の会議等を欠席しているにもかかわらず、議員の報酬、期末手当が満額支給されている事案が社会問題となりました。

このことを受けて、奈良県議会においても、報酬等の支給に関しては、県民の皆さまの理解が得られるようにすべきとの考えのもと、2定例会にわたって出席を求められた議会や委員会といった会議等をすべて欠席した場合を、長期欠席とし、出産や公務上の災害といったやむを得ない理由がなければ、次の会議等に出席するまでの間、議員報酬の2分の

1を減額するなどの規定を条例に追加しました。

さらに、開かれた県議会に向けた取り組みとして、若草山の山焼き観賞のための正副議長室の開放や2月定例会の開会日に議場コンサートを開催しました。議場コンサートの開催は今年で10回目となり、クラシックギタリストの稲川雅之氏に吉野地方の県産優良スギ材で作られたギターを演奏していただきました。感染症対策として、募集人数を絞りましたが、かなりの数の応募がありました。

この他、この1年間を振り返りますと、議長に就任して間もない昨年7月21日に、紀伊半島大水害を契機として毎年開催されている、紀伊半島三県議会交流会議に出席しました。奈良県、和歌山県、三重県の3県の思いや問題意識を共有するとともに、議員間討議を通じて提言を取りまとめ、政府にお伝えしました。

五條市内での整備が予定されている、大規模広域防災拠点の用地取得に関する議案が今議会に上程されていますが、紀伊半島エリアをカバーする大きな防災拠点とすることにつながりますし、私も菅内閣総理大臣(当時)に、こういった大規模広域防災拠点の整備を国家的な事業として計画にあげてほしい、一刻も早く計画決定してほしいということのリポートでお伝えしました。

また9月には、第32回東京オリンピック柔道男子73キロ級で優勝し、金メダルを獲得された大野将平氏に、「奈良県議会スポーツ特別功労賞」を授与し、その栄誉をたたえましたが、同賞の授与は、大相撲令和2年1月場所で優勝された「徳勝龍 誠」氏、そして第57回全国大学ラグビーフットボール選手権大会で、1925年の創部以来初めて優勝した「天理大学ラグビー部」に続き、3例目となりました。

奈良市・山辺郡選挙区選出の議員2名が議員辞職したことに伴い、昨年10月31日に補欠選挙が行われ、疋田進一議員、階戸幸一議員の2名が当選しました。

今年に入ってから、3月19日に、平城宮跡歴史公園大極殿院大極門(南門)完成披露式典、さらに21日には「なら歴史芸術文化村」開村記念セレモニーに出席しました。なら歴史芸術文化村は、歴史、芸術、食と農など、を県の誇る文化に触れ、学び、体験できる施設として、天理市杣之内町に開村したもので、文化財と観光の両面をもった新たな拠点としての活用が期待されています。

4月21日から22日にかけて、「立皇嗣の礼お済ませにつき、神武天皇山稜御参拝」のため、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がお成りとなりました。両殿下が平成29年6月に薬師寺を訪問されて以来、およそ5年ぶりの御来県でした。

これらの出来事をはじめ、1年があつという間に過ぎましたが、正副議長ともに常に県民の皆さま方の思いに寄り添って頑張って参りました。

本当に1年間お世話になりました。ありがとうございました。

(終了)